

第44回運営小委員会 議事録

1. 開催日時：令和3年3月12日（金） 10:00～12:00
2. 開催方法：Webexによるオンライン開催
3. 出席者：渡邊、阿部（東北大学）、室屋（大阪大学）、山下（東京大学）、高木・山本（東芝 ESS）、久宗（WANO）、杉野（日本原電）、宮澤（東京電力 HD）、荘田（三菱重工）、清水^代（日立 GE）、伊藤（日立）、河村、藤原（電中研）、大橋（オルガノ）、勝村（東京大学名誉教授）、内田、塙（JAEA） 【敬称略、順不同】

4. 議事

(1) 前回議事録の確認

前回運営小委員会議事録について了承された。

(2) 水化学部会運営小委員会委員選挙結果報告

選挙管理小委員会委員長に代わり塙委員（庶務担当）より、候補者全員が有効投票総数の過半数以上の信任票を得たことが報告された。

なお、有効投票総数は44名と少なく、今後の課題であることが指摘された。

(3) 2021・2022年度水化学部会運営小委員会担当委員について

久宗副部長より、資料に基づき2021年度以降の運営小委員会委員の役割分担案が説明された。

定例研究会WGについては負荷が大きいことから主査を2名体制として、定例研究会を山下委員が、企画セッションを山本委員がそれぞれ分担いただくことになった。部会等運営委員は、宮澤委員に来期も継続いただくこととなった。また、担当者リストには部会等運営委員とリモート化WGが抜けていることがコメントされた。

(4) 第40回 定例研究会について

山本委員（定例研究会WG担当）より、資料に基づき今後の定例研究会の開催方法及び次回定例研究会の案が説明された。

次回定例研究会の基調テーマはPWR二次系の水化学として、関電殿、三菱殿から各1件の講演、特別講演として2020年度の部会賞受賞者の記念講演を含めることについて議論された。3部会合同夏期セミナーでは、部会賞受賞者による講演も検討されていることから、2020年奨励賞受賞者の講演を定例研究会で、2020年度講演賞受賞者の講演を夏期セミナーで行うことを前提に、受賞者の講演可否を確認することとなった。次回開催は、6/28の週を予定する。

(5) 第 19 回全体会議資料について

埴委員（庶務担当）より、同日午後開催する第 19 回全体会議資料が説明された。一部誤記を修正することで了承された。

(6) 3 部会合同夏季セミナーへの対応について

河村委員（企画担当）より、資料に基づき 3 部会合同夏季セミナーの検討状況が説明された。

プログラム案について、水化学基調講演は渡邊部会長、水化学基礎講座は杉野委員にそれぞれご対応いただくことになった。2 件の水化学トピックスについて、1 件は FP 挙動研究専門委員会の取り組み紹介とし、残る 1 件については（案 1）1F 事故 10 年をふり返って（宮澤委員にご対応いただく）、（案 2）部会賞受賞者講演のいずれかで検討することとなった。なお、案 1 については企画枠の方が適していることから、案 1 が企画枠で OK となれば案 2 をトピックスの残り 1 件とする。参加費の案については、特段のコメントは無く了承された。

(7) 2021 年春の年会 企画セッションの内容について

山本委員（定例研究会 WG 担当）より、資料に基づき 2021 年春の年会企画セッションの内容が報告された。

(8) 2021 年 秋の大会 企画セッションについて

山本委員（定例研究会 WG 担当）より、資料に基づき 2021 年秋の大会 企画セッションへの対応が説明された。

テーマ案のうち、水化学管理指針が適しているが、標準委員会との調整が必要となる（企画セッションでは標準委員会の枠があること、公開できる範囲に制限がある等）ことから、標準委員会との調整が順調に進めば秋の大会に提案し、間に合わなければ春の年会に提案することとなった。なお、水化学管理指針を取り上げるのが難しい場合は、水化学ハンドブックを取り上げることにする。

(9) 2020 年度部会報の発行について

清水氏（長瀬委員（広報担当）代理）より、資料に基づき部会報の準備状況が報告された。

原稿の〆切は 3/19 であること、部会報の発行は 3/31 を予定していることが周知された。

(10) 部会賞の選考結果について

部会賞選考小委員会より、部会賞の選考結果が報告された。

(11) 2021 春の年会における講演賞の選考委員について

部会賞選考小委員会より、2021 年春の年会講演賞の選考委員及び審査対象講演が報告された。

(12) 水化学ハンドブックの改訂状況について

杉野委員（ハンドブック改訂 WG 幹事）より、ハンドブック改訂 WG の状況が報告された。発刊は来年となる見込み。

(13) シビアアクシデント時の核分裂生成物挙動研究専門委員会について

内田顧問より、同委員会の活動状況及び今後の予定が報告された。

3 月末で同委員会の 4 年弱の活動は終了し、次年度からは改めて研究専門委員会が立ち上がること、技術報告書は 100 部出版予定で、価格は税抜き 4,000 円となることが周知された。

3/18 の春の年会企画セッションで 4 年間の総括を報告する予定である。

以 上